



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第四五八号）

小寒 しょうかん

一月五日

神宮植樹祭

新年おめでとうございます。午年の一年、皆様の飛躍をお祈りいたします。
内宮周辺の山々は、かみじやま神路山と呼ばれます。二十年に一度の神宮式年遷宮で、しきねんせんぐう新しく造営される社殿に使われるご用材（ヒノキ）を育てる宮域林です。みやういきりん大正十二（一九二三）年の神宮森林経営計画に沿って、手入れがなされています。そこで、ヒノキの苗木を植える植樹祭が行われました。

神宮植樹祭は春が通例ですが、遷宮諸祭しよさいが始まり、昨年十一月十八日に行われました。入山禁止のため、神宮司庁からマイクロバス三台で会場へ向かい、三十分弱。道中は、ヒノキの幹に白いペンキで一重や二重にマークされた木もあります。将来、立派なご用材に育つと予想されるヒノキで、その周囲の木は伐採されます。

植樹祭は内宮の南側にあたる鼻突谷はなつきだにで行われました。伐採された斜面は〇、ニヘクタール。ここに四十センチほどに成長したヒノキの苗を一本ずつ手で植えていくのです。まずは、無事に植樹が行われるよう、大宮司、少宮司が参列するなか、神事が行われました。そして、営林部の説明のあと、参加する神宮職員七十人ほどが一斉に斜面に張り付き、約一時間かけて、植樹を行いました。

神路山にヒノキの苗木を植える植樹祭は、昭和二十五年から始まり、今年で第七十六回を数えることを知り、驚きました。先の大戦の終戦後、同二十四年に予定されていた神宮式年遷宮は延期され、宇治橋の架け替えのみ行われました。その翌年に、将来のご用材となるヒノキを育てる山を作るための植樹祭が始まっていたのです。遷宮は延期となっても、肅々と遷宮の準備を進めていたのです。内宮から眺める神路山は、今年も変わりなく青々としています。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 伝統芸能の披露

お正月にふさわしい、縁起の良い郷土色豊かな伝統芸能が繰り広げられます。
めでたい新春のひとつときをお過ごしください。

日時／1月11日(日)、18日(日)、25日(日)

場所／おかげ横丁 一帯

※諸事情により内容が一部変更になる場合がございます。

● 恵利原の早餅つき

力強い掛け声とリズムカルな動きで餅をつく様子は迫力があり、観客を引き込みます。
つきたての温かいお餅は、来場者へ振る舞われます。

日時／1月11日(日) 12:00～、13:00～、14:00～

● 伊勢大神楽

国の重要無形民俗文化財にも指定されている伊勢大神楽講社紀州支部山城社中による、門付けを華やかにいきます。笛や太鼓の響きが町並みに広がり、舞手の優雅な所作と獅子の力強い舞が、人々の無病息災と家内安全を祈願します。

おかげ横丁の店々を門付けしていただきます。

日時／1月18日(日) 13:00～

● 安来節

安来節は、軽快な三味線の音色と唄に合わせ、ユーモラスかつ巧みな動きで観る人を魅了する、島根県を代表する民謡芸能です。その素朴さと親しみやすさは、世代を超えて多くの人々に愛され続けています。

日時／1月25日(日) 12:00～、13:30～

お問い合わせ/おかげ横丁総合案内「おみやげや」 電話0596-23-8838

五十鈴塾

○ 「慶安二年内宮・外宮図」を紐解く

今回は提供いただいた「慶安二年内宮・外宮図」の写しをご覧ください、そこに描かれる場面をじっくりと解説したいと思います。作者は出口延佳と共に豊宮崎文庫の創設に貢献した與村弘正です。京都大学名誉教授・金坂清則氏との共同調査によって、実に興味深い歴史の事実が判明しました。この絵図は、紀州藩主徳川頼宣の命を承った弘正が慶安2年(1649)8月に書写したもので、9月25日と27日に斎行された第44回式年遷宮を意識したものです。知られざる神都の歴史を垣間見ることのできる貴重な絵図ですので、楽しみに聴講してください。

日時／1月19日(月) 13:30～15:00

講師／音羽 悟(神宮司庁広報室次長・神宮参事)

参加費／一般 1,500円 会員 1,000円

場所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 五十鈴茶屋節気菓子

きょく じつ
旭 日
(1月7日まで販売)

紅色の練きりに、神々しい日の光を表した金箔を添えて初日の出に見立てました。

よろこ び
佳 び
(1月8日～1月19日まで販売)

紅白のきんとんで新たな年を迎えたよるこびを表現しました。

えと が し うま
干支菓子・午
(1月19日まで販売)

淡い黄色の羊羹の上にふんわりと蒸しあげた白いかん生地を重ねました。